

Curly Giraffe interview

GREAT3やHONESTYなど、多数のバンドやプロデューサーで活躍してきた音楽家・高桑圭。彼のソロ・プロジェクトであるCurly Giraffeが、実に5年ぶりとなる新作『a taste of dream』を発表した。felicityへの移籍第1弾となる本作には、高橋幸宏、藤原さくら、ハナレグミという3人のヴォーカリストが参加。一方、すべての楽器を自身で演奏するなど、開放感と親密さが同居するフレッシュなサウンドとなっており、さらに初挑戦の日本語詞曲も話題だ。そんなCurly Giraffeに、〈未来ノ和モノ〉という観点から話を訊いた。

—— 未来や世界のリスナー／ユーザーに向けた新作『a taste of dream』の聴きどころは？

僕は、Curly Giraffeとして今回のアルバムで初めて日本語で歌っています。声や言葉の響きも音の一つと捉えたと楽器を含め、それらは個性だと思います。配信の時代、音楽はいつ、どこかの国の物というより、個人（グループ）から届く先までだと思うので、どこかの誰かがたまたま聴いたら良い感じだったから何度も聴いてるよってなったら嬉しいです。

—— 今後の日本の音楽シーンや世界のシーンの展望について教えてください。

その土地その土地で語り継がれた歌や物を叩いて音を出していたであろう時代から、レコードに吹き込まれて聴く時代となり、今は自分が持つ携帯電話から音楽が聴ける時代。配信が当たり前になることで、発表された時期や場所、言語は関係なく、耳に触れた人の感覚で聴いていくようになるのでしょうか。

—— 日本人の感性や音楽で優れていると思われる部分は？

娘がロサンゼルスの高スクールに通っているの、まじまった休みが取れたら会いに行くのですが、全体的に日本人は器用でキャッチーだと話しています。島国ならではの独特な文化の作られ方があるのでしょう。ネットの時代になった今でも、音にはその感覚の背景が反映されていると思います。

—— そういったなかで、高桑さんはCurly Giraffeとしてどう存在していきたいですか？

何故かジャケット写真になると白い服を着がちな僕ですが（笑）、これは何色にも染まらずに無色透明で常にいたいという僕なりのメッセージが込められています。そして最終的には僕の音楽を聴いてくれた貴方の色に染めてほしい。



新作『a taste of dream』についてのロングインタビューは [miki.tokyo.jpにて!](http://miki.tokyo.jp/articles/-/21263)
<http://miki.tokyo.jp/articles/-/21263>



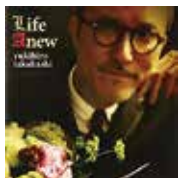
Giraffe's Choice



木村カエラ
『1』



安藤裕子
『Middle Tempo Magic』



高橋幸宏
『LIFE ANEW』



佐野元春 & THE COYOTE BAND
『MANIJU』



ハナレグミ
『SHINIJERU』



藤原さくら
『la la carte』



BONNIE PINK
『Dear Diary』



Awesome City Club
『Awesome City Tracks 4』



あいみょん
『瞬間的シンクセンス』



竹原ヒストル
『PEACE OUT』



そのサウンドは、機能性を損なわずに時代を超越する。
そのサウンドは、新たな機能性を見出され時代を超越する。
20年後、30年後、世界中の音楽ディガーに発見され、興奮し、語り継がれる日本の音楽。
フロアを揺らす音楽。決して消費される事のない音楽。音楽はタイムマシン。
盤は回り、そのサウンドは未来へと繋がって行く。



Curly Giraffe 『a taste of dream』

まさに夢の中へ誘うデイドリーミンな傑作です

前作『Fancy』より約5年ぶりとなるニュー・アルバム。何と全12曲中8曲が日本語詞。制作のほとんどすべてを一人でこなすスタイルは変わらないが、彼と親交の深い高橋幸宏、藤原さくら、ハナレグミとのデュエット曲も収録。ファンキーソウルナンバーな先行曲“SOMEWHERE”、カーリージラフ史上初の日本語詞にも挑戦した曲、ドリーミーなポップナンバー、フォーキーなアコースティックナンバーまでバランス良く詰め込まれた会心作。

4/24発売

タワーレコードオリジナル特典：ステッカー

・応募抽選付きポストカード

※Curly Giraffe 直筆サイン入り「未来ノ和モノ」ポスター（5名様）

Editor's Choice

七尾旅人 『Stray Dogs』



20周年の節目に放たれた、
愛情と感謝に溢れる作品

大切な人との別れを乗り越えて作られたという本作。『兵士A』に収録された“Almost Blue”をはじめ、辛い離別の感覚が随所にちりばめられているが、美しいメロディと優しいアレンジで、聴く人の心を穏やかにしてくれる。様々なカタチの人生や生命を肯定してくれる、そんな一枚。

好評発売中

藤原さくら 『red』



アニメ『若おかみは小学生!』主題
歌を含む3rd EP

作詞作曲を自身が手がけ、サウンドプロデューサーにmabanua (Ovall)を迎えた3rd EP。劇場版アニメ『若おかみは小学生!』主題歌“また明日”や、同作品のテレビアニメ版主題歌になっている“NEW DAY”を含む全6曲を収録。

好評発売中

Ovall 『IN TRANSIT DELUXE EDITION』



ファンサイト限定EP+リミックスに
新曲で構成された企画盤

復活ライブに合わせて、2012年にorigamiの会員サイト限定で出されていたミニ・アルバム『In TRANSIT』とそのリミックス集『Re:Ovall』が2枚セットで待望の一般リリース。その先の展開を期待したくなる新曲を含め、中身の濃さは過去最高。

好評発売中

DedachiKenta 『breakfast for dinner <タワーレコード限定>』



日本人離れた歌声に、
柔らかく透明感に溢れるサウンド

アナログ、配信限定で発売された“This is how I feel”が全国のラジオ局でパワープレイされ、業界内外から注目を集めるLA在住19歳のデビュー作が、タワーレコード限定で初CD化。R&Bやゴスペルの要素も散りばめられた独特のサウンドと、卓越したソングライティングは唯一無二。

好評発売中

cero 『POLY LIFE MULTI SOUL』



渾身の4thアルバムは
真骨頂にして、新しい音楽

2010年代を代表する1枚となった前作『Obscure Ride』から約3年を経て放たれた4作目のアルバム。本作は、荒内佑が手がけた楽曲“魚の骨 鳥の羽根”や、アナログ12inchで先行リリースされた“Waters”など全12曲を収録。

好評発売中

Michael Kaneko 『Westbound EP』



南カリフォルニア育ち注目の
新人SSWのデビューEP

origami PRODUCTIONS発、湘南生まれ、南カリフォルニア育ちの日本人シンガー・ソングライターの5曲入りデビューEP。US西海岸育ちらしい楽曲のテイストはもちろん、そのハスキーで特徴的な歌声を聴けば、国内外からのオファーの多さも納得。

好評発売中